

自然を語る会

9月19日(土) 10:00 から 12:00

飯田橋ボランティアセンター+zoom

参加者 14名

担当者 柳沢さん

10月31日(土)に南極観測隊の料理人だった渡貫淳子さんをお迎えしてお話をしていた
だくことになっている。その前に南極のことをもっとよく知っておこうと柳沢さんが資料
を作り、お話ししてくださった。

資料は 1. 南極ってどんなところ？ 2. 南極の歴史 3. 南極の自然といきもの 4. 南
極の環境保全と環境問題 5. 渡貫淳子さん（南極観測隊調理隊員）の紹介

南極はもちろん寒冷な場所だが、それでも場所によって気温はかなり違う。南極点付近の
冬では -60°C 程度だが南極半島付近では -10°C 程度で、今年の夏はなんと 18.3°C にまでな
った。南極と北極の気候の違いについて質問が出た。南極は大陸だが北極は基本的に海なの
で温度は南極に比べると高いそう（その上南極では大陸の上に氷が 4000m も積み上げら
れていて、標高も高いのでそれだけ気温も下がる）。

南極はかつてゴンドワナ大陸の一部だった。それが1億5000万年ほど前から分裂し始め
南極の周囲が海となり、現在の場所に移動してきたそう。もっと温暖な気候の時もあった
ようで、植物の化石なども発見されている。しかし現在は寒冷な気候のため、生息している
動植物の種類は非常に少ない。

環境に関連しては地球温暖化、オゾン層の破壊が問題となる。温暖化で近年大きな棚氷が
次々と崩壊している。ただし氷は増えているという報告もあり、どれが真相なのか、また棚
氷の崩壊は温暖化によるものなのか、自然の普通のリズムで起こるものなのか疑問が出さ
れた。我々の知識だけではわからないことで、実際に南極に行かれた方に話を伺いたい。南
極の氷がなくなるとペンギンたちのコロニーもなくなる。

南極特有の問題としては、ゴミの問題もある。長年放置されたゴミでペンギンたちが傷つ
くこともあるようだ。現在では以前の観測隊が残していったゴミも少しずつ持ち帰るよう
になっていて、大分きれいになったようだが、それでもなかなか大変そうだ。



10月講演会講師の渡貫さんの紹介があった。第57次南極観測隊に料
理人として参加。『南極ではたらく』というご著書から興味深い部分を抜
粋して紹介があった。非常に音の種類が少ないとのこと。他の観測隊員
の本でも、オーロラが激しく動き回っているのに音は全くしない、とい
うことも書かれていた。南極廃人という言葉がある。1年間南極で暮ら
して帰国したとき、あまりの社会的ギャップに、普段の生活に戻るのに
時間がかかったということだ。具体的にどんな様子なのか、ぜひ実際
のお話の中で聞いてみたいと感想が述べられた。 (文責 小川)